

日吉台地下壕保存の会会報

第59号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号 00250-2-74921

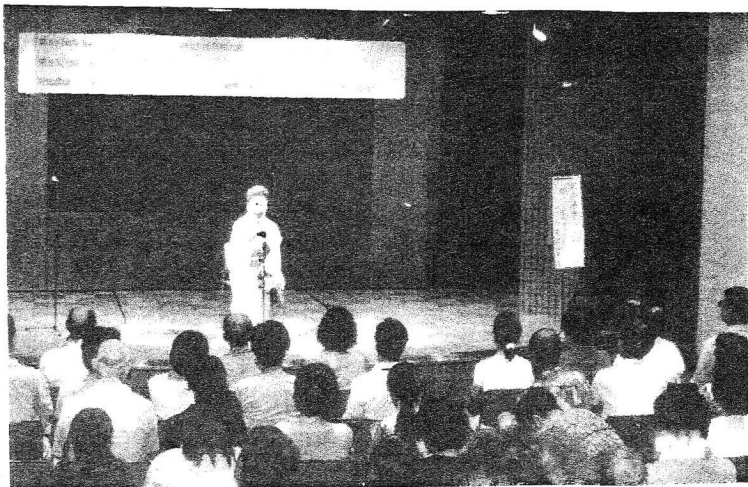
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ : 白鶴 邦子 神奈川区白幡向町 20-49 045-402-9090
 其他のお問い合わせ : 喜田美登里 港北区下田町 2-1-33 045-562-0443
 ホームページアドレス : <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Hanamizuki/2402/>

第五回戦争遺跡保存全国シンポジウム 神奈川県川崎大会成功裏に終了！

2001年8月4日5日両日にわたって、川崎平和館及び法政二高に於いて開かれた戦争遺跡保存全国シンポジウムは延べ約700人近い参加をもって成功裏に終了しました。この大会には日吉台地下壕保存の会から多くの会員が参加し、大会の推進と成功に大きな役割を果たしました。本会報(臨時号)では、大会の概要と参加した会員の方の感想や、大会にあわせて発刊された2冊の書籍の紹介等の特集します。なお大会の報告集が来

年初頭には発行される予定です。もっと詳細はそちらもお読み下さい。



記念講演「語りつぐべきこと」澤地久枝さん

【目次】

第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム「神奈川県川崎大会」の報告	2頁
大会概要・フィールドワーク・全体集会	
分科会・よせられた感想	

第5回全国戦跡シンポ 大会アピール	6頁
「日吉台海軍省艦政本部地下壕」保存についての特別決議	7頁
出版物のご案内	8頁
学習会(日吉の海軍で仕事をしていた人のお話を聴く会)のご案内	9頁
「活動の記録」など	10頁

第五回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」 神奈川県川崎大会の報告

大会概要

戦争の二十世紀から平和の二十一世紀へ……。いかにして戦争のない平和な世界をつくりだすことができるか……。世界の人々、とりわけアジアの人々との理解と協同が今ほど求められている時はない。(本稿準備中)

に米国で同時多発テロが発生し、21世紀型の戦争が始まるのではないかとという危機感が、大きくなっている今こそ。)

こうしたなか、第五回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は、全国から延べ700人近い参加で八月四日・五日の二日間、神奈川県川崎市にある平和館と法政第二中等高等学校を会場にして、第九回「川崎・横浜平和のための戦争展」と同時開催された。

8月4日(土)

9:30~11:30

フィールド・ワーク

日吉台連合艦隊地下壕見学 見学者約100名

13:30~16:30

全体集会 会場 川崎平和館

13:00

開会式 村上有慶全国ネット代表 挨拶

白井厚シンポジウム現地実行委員長挨拶

川崎平和館館長挨拶及び川崎市長メッセージ

13:30

講演「語り継ぐべきこと」 作家 沢地久枝さん

15:15

基調報告 十菱駿武全国ネット代表

地域報告 各地より

18:00~20:00

交流会 日吉東急フード・ギャラリー

アトラクション 劇団ひとみ座 三番叟

8月5日(日)

9:00~12:00

分科会

昼食

13:00~14:00

分科会

第一分科会「保存運動の現状と課題」 会場 法政二高

第二分科会「戦争遺跡の調査方法と保存技術」 会場 法政二高

第三分科会「平和資料館と若者への継承」 会場 川崎平和館

14:30~15:30

閉会集会 川崎平和館

15:30~16:30

戦争遺跡保存全国ネットワーク総会 川崎平和館

フィールドワーク

第一日目の4日朝の9時30分、全国から100名強の参加者を迎え、慶応大学日吉キャンパス内の旧帝国海軍連合艦隊司令部跡＝日吉台地下壕を中心とした戦争遺跡を見学した。当日は朝からカンカン照りの真夏日で、

下手をすれば日射病で倒れる人が出かねないような中での開催だった。汗だくで地上の戦争遺跡を見学したあと地下壕にもぐると、とてもひんやりしていて、地下壕が束の間の避暑地になった。ただ、地下壕自体が結露で汗をかいているので、足元がやや水びたしだったり、滑ったりで大変だった。100人が無事に見学を終えることが出来てとても良かった。

たと考えている。

保存の会の運営委員会を中心とした実行委員が案内したが、①海軍は学生たちをこの学園から追い出し、戦地に送り込んでから（学徒出陣）入ってきたこと、②国体護持のため天皇制のために、多くの犠牲を省みず戦争継続・「本土決戦」のために地下壕を掘り、ここに海軍がやってきたこと、③結果引き伸ばされた戦争で、韓国・中国・その他のアジアや沖縄で日本軍は多くの戦争犯罪を犯した

こと、④ここは、直接的に特攻作戦や沖縄作戦等の司令を発したところであること、⑤同時に今は、二度とこのような戦争が起きないように考える場であること、に力点をおいて案内をしたつもりである。

戦争遺跡自体が語りかけるものは絶大であり、案内する側の内容のレベルはどうあれ、参加者は「勉強になった。」「良くわかった。」と日吉台地下壕が語りかけることを平和のためにかみしめることが出来たと考える。

全体集会

午後から全体集会に入った。開会セレモニーのあと、作家の澤地久枝さんが「語りつぐべきこと」と題して記念講演をした。澤地さんは、日本の国家・軍部が、アジア太平洋戦争で国民に想像も出来ないほどの深い傷を残したことを述べ、私たち大人と若い世代との間で言葉が通じなくなっている状況があったとしても、今それを乗り越え、日本と世界に戦争の悲惨さを伝えようと、小泉首相の靖国神社参拝、集団自衛権などの問題にふれて語った。

つづいて、今大会の基調報告が、戦争遺跡保存全国ネットワークの共同代表である十菱駿武氏よりあった。

戦争遺跡を巡る情勢と、戦争遺跡保存の課題として①戦争遺跡の全国的な分布調査と個別遺跡の調査・研究の前進、②戦争遺跡の文化財指定・登録の拡大、③戦争遺跡の学習・保存・活用運動の展開、④保存活用方法の検討、⑤平和博物館建設運動との連携、⑥戦争遺跡ネットワークの全国拡大と財政基盤の確立についての報告があった。

詳しくは、後日発行される「全国シンポジ

ウム報告集」を参照願うとして、ここでは一部だけ内容報告する。

戦争遺跡の文化財指定・登録の拡大については、「明治時代の砲台・要塞・建造物・北海道の屯田兵関係の遺跡・建造物は文化庁の近代遺跡・近代化遺産の対象となっているので、戦争遺跡として認めるべきだ。これまで運動の主課題となった15年戦争の遺跡・遺産を戦争遺跡と狭く対象にしてきたことを改め、拡大」したことや、原爆ドームに並び、原爆被爆の実態を語る広島市日本銀行広島支店が新たに市指定の戦争遺跡になるなどで、指定・登録された戦争遺跡は66件に増えたことが運動の前進として報告された。一方で、京都市にある南京大虐殺での中心的部隊陸軍16師団の長官舎の解体（記録保存は勝ち取られた）や、日吉台艦政本部地下壕の埋め戻し工事の着工など、運動にとって厳しい局面にあることも報告された。

学習・保存・活用運動の展開では、IT（ホームページ・電子会議室の設置など）の活用も積極提案された。（ちなみに、日吉台地下壕保存の会でも今大会にあわせてホームページが開設されたので是非参照願いたい。

<http://tools.geocities.co.jp/cgi-bin/homestead/hood?HeartLand-Hanamizuki2400>へGO! 2402番地へ行ってください。）

分科会

第二日目は、九時から分科会に入った。第一分科会は、「保存運動の現状と課題」というテーマで報告・討議された。

「山梨県郡内地域の戦争遺跡について」（山梨）、「高知県の戦争遺跡保存の現状と課題」（高知）、「蟹ヶ谷地下壕の保存運動の経過と到達点」（川崎）、「この一年間の活動の報告」（東京：八王子・浅川地下壕）、「日吉台（連合艦隊司令部）地下壕保存運動の現状

と課題」(横浜)、『『ガラビ壕崩落の危険あり』騒動に関する報告』(沖縄)、「松代大本営象山地下壕公開部分の保存の現状について」(長野)、「第十六師団官舎の記録保存について」(京都)、『『みやぎの近現代史を考える会の活動』』(仙台)、「七三一部隊遺跡の世界遺産登録をめざして」(市川)、「大房崎砲台の町文化財指定」(千葉)のレポートで、60名を超える参加者と25名の発言があって充実したものとなった。

討議の中で消滅する戦争遺跡に対しては、私たち自身が記録保存し、保存活用できる遺跡については運動を進めながら保存を実現していくことなど、昨年の論点を一層深めることができた。そして、これから、全国の戦跡保存を進める上で文字通り人と人をつなぐ交流を深めていく大切さが確認された。

第二分科会では、「戦争遺跡の調査方法と保存技術」というテーマで報告・討論された。

「沖縄県戦跡詳細分布調査における現状と課題」(沖縄)、「ハイラル要塞遺跡の調査報告活動」(中国内モンゴル)、「長野県内の中国人強制連行・強制労働・戦争遺跡の調査と聴き取り調査について」(松本)、「戦争遺跡としての公園」(京都)、「中国東北部における戦争遺跡の日中共同調査」(戦跡考古学会)、「地下壕の実態調査と保存対策」(八王子)、「七里岩地下壕調査に参加して」(山梨)の七本のレポートがあった。

討論を通して、戦跡調査の方法については考古学的手法、聞き取り調査、身近なところから誰でもでき、全国展開ができるような調査が、大きく統一された形で進められる必

要があること、また五年間の懸案であった保存技術について、特に土壌、地質的な分野、地下壕を中心とした安全対策に関わる問題、安全評価、危険度評価も今後追求していくことが確認された。

第三分科会は「平和資料館と若者への継承」というテーマで討議された。「琉球大学平和ガイドの活動と学び」(沖縄)、「海外の平和博物館との交流」(高知)、「戦争遺跡の活用と観光」(大和)、「宇治市で初めて戦争遺跡の説明板の建立」(京都)、「教科諸問題を考える。」(教科書ネット21)、「平和資料館のあり方ー浅川地下壕記念資料館設計の試みー」(八王子)、「つくる会」教科諸問題と戦争遺跡の保存運動」(横浜)、「長野県高校平和ゼミナールの活動について」(長野)、「平和のための戦争展」から常設展示「赤レンガ倉庫に平和博物館を」(横浜)、「アンケート結果から中国人青年層の歴史認識と歴史観」(横浜)、「みんなが主役の松代大本営平和記念館づくり」(長野)の報告があり、フロアーからは法政二高歴史研究会等からの報告もあった。そして参加した多くの若者たちとともに次世代へ継承の方法を考えあうことができた。

今回の大会では、特別報告を含めレポートは40本を超え深い討議がなされた。全国14団体の協力を得た戦跡写真・実物展示、特攻隊員「上原良司遺書・所感」、絵画「戦争遺跡を描く」(北海道)の展示があった。そこには確実に戦争遺跡保存運動の高まりと広がりが見られた。

大会アピール・決議

最後に、閉会集会では、大会アピール「戦争遺跡の保存と史跡・文化財への指定をすすめる平和な21世紀実現に向けた国民的な運動をつくりだしましょう」と、特別決議『『日吉台海軍省艦政本部地下壕』保存についての決議』(本決議文は、文化庁長官・国土交通省大臣・神奈川県知事・神奈川県教育委員会・横浜市長・横浜市養育委員会に宛てに提

出された。)を採択して閉幕した。引き続いて行われた戦争遺跡保存全国ネットワーク総会では、「新しい歴史教科書」の採択に反対し、小泉首相の靖国公式参拝に反対する決議と「新しい歴史教科書」の採択に反対する緊急の要請署名がその場で行われた。

大会アピールと特別決議は6頁、7頁に掲載しました。御一読下さい。

よせられた感想

第五回『戦争遺跡保存全国シンポジウム』【神奈川県川崎大会】を終えて

2000年10月6日、相模原市の地下約50年に東急建設が施工している「大規模地下空間利用実験場」の見学会に参加して参りました。それほど広い空間ではありませんが、「植物実験」「材料実験」「多目的実験室」「地下水観測」そしてワインの貯蔵などかなり広範囲な実験が行われていました。驚いたことに湿度が90%以上なのに、温度が19度Cの状態ですと、体感は快適でした。動物や昆虫などは見かけませんでしたが、植物の葉などは艶も良く、生き生きとしていました。

2001年8月4日(土)午前10時、ワールドワーク日吉台地下壕の見学を皮切りに「戦争遺跡保存全国大会」の緞帳が揚げられました。この見学会もかなりの回数を数えますが、参加者の数は増える一方で、この日も100名を超え、開会式場への移動も貸し切りバスで、ピストン輸送という手段が使われました。開会式場、講演会場、そして展示会場となった「川崎平和館」では「記念講演」として作家「沢地久枝」さんが椅子に腰掛け、語りかけるように「語り継ぐべきこと」という演題で「愛するものをたやすく奪ってしまう戦争の悲惨さを、未来に伝えなければならない」と訴え、その中身は濃く、時間のたつのも忘れるくらいでした。

全国ネットワーク代表の山梨学院大学十菱教授は基調報告で、全国の戦争遺跡が国や自治体の文化財として指定されている一方、建造物の解体や遺構の消滅が相次いでいると指摘し、戦争遺跡の研究が必要であると述べられました。次いで各地からの地域報告があり、一日目の「交流会」会場の日吉東急3階のフードギャラリーへのバス移動で到着となりました。

翌5日は法政二高で第一分科会(保存運動の現状と課題)第二分科会(戦争遺跡の調査方法と保存技術)第三分科会(平和資料館・若者への継承)が開かれ、14時30分から平和館で全体会を持ち、2日間・2会場における全国シンポジウム神奈川県川崎大会は盛会裡に終了しました。続いて15時30分から、全員総会が開かれ、その閉会の辞をもって、暑く、長かったこの夏の舞台の幕も降りました。

戦後50年余、冒頭のような実験も着々と進んでいます。平地や丘陵地帯の地形も利用の仕方によって平和で快適な住空間となる日も近いような気がします。(常盤 義和)

運動の広がりを感じた

はじめて全国シンポジウムに参加しました。初日の澤地久枝さんの講演では、今の若い人たちに日本語が通じないような思いにとらわれても、誠意をもって粘り強く語り継ぐならば必ず受けとめてくれるというお話が感動的でした。

二日目の分科会(第一分科会に参加)では、全国各地で「保存の会」を立ち上げようとしている報告があり、運動の広がりを感じました。地道な調査・保存の活動を続けておられる各地の方々のご苦勞には本当に頭の下がるおもいです。

入会したばかりの私ですが、先輩諸氏にイロハから教えていただいて、がんばりたいと思います。(富沢 慎吾)

第三分科会 感想

11本のレポートとフロアーからの報告が3本あった。内容的には「平和資料館関連」「高校生や大学生の活動等若者への継承関連」それに「教科書問題」の三つの分野に分かれた。平和資料館関連では英語版や中国語版の会報を作り、海外の平和資料館等と交流を行う活動、行政に要求して戦争遺跡に説明板を設置する活動、平和資料館の設計を大学の卒業制作で行う活動などがあり、また観光という視点について議論があった。若者への継承関連では高校生や大学生の戦争遺跡の調査、ガイドなど様々な活動の報告があり、教科書問題では、戦争遺跡との関連で「新しい教科書」の問題性があげられた。全体として、三つの内容に分かれたため、テーマを絞り、若者をメインとした内容の分科会を設立しても良かったかも知れないと思う。会場が広がったため、議論を交わすより、発表を聞くのが中心だったが、若者だけの分科会ならもっと色々な若者の内面が見られたかも知れない。しかし、大変聞き応えのある、内容的にも充実した分科会であった。(岡上 そう)

大会アピール

「戦争遺跡の保存と史跡・文化財への指定をすすめ

平和な 21 世紀実現に向けた国民的な運動をつくりだしましょう」

21 世紀を迎えた 2001 年 8 月 4～5 日、わたしたち戦争遺跡保存全国ネットワークの仲間たち 400 名は、神奈川県川崎市につどい、第 5 回戦争遺跡保存全国シンポジウム「神奈川県川崎大会」を開催しました。シンポジウム開催にあたり後援をいただいた神奈川県ならびに川崎市に対し、心より感謝いたします。

開催地となった川崎市や隣接する横浜市周辺には日吉の海軍連合艦隊司令部壕、蟹ヶ谷海軍通信隊地下壕、陸軍登戸研究所をはじめとする数多くの戦争遺跡が残され、市民の手によってその調査と保存の運動がすすめられています。特に連合艦隊司令部壕は、慶応義塾の姿勢に敬意を表するとともに、行政当局による史跡指定、保存と活用への施策の具体化を求めます。また、箕輪にある日吉台海軍省艦政本部壕が、防災のために全面閉鎖・埋め戻しされようとしていることを危惧します。艦政本部壕に対する一刻も早い学術調査の実施と、将来復元可能な仮閉鎖での対応を行政当局に求めるものです。川崎・横浜ではすでに 9 回の「平和のための戦争展」が、多くの市民の参加と行政当局の支援によって開催され、戦争体験の継承に大きな役割をはたしています。シンポジウムでは、こうした川崎・横浜の実践に学びながら、参加した多くの若者たちとともに、次世代への継承の方法を考えあうことができました。

文化庁の「近代化遺産総合調査」「近代遺跡調査」の進展により、戦争遺跡の史跡・文化財への指定・登録は 66 件に増加し、また 2003 年まで近代遺跡の詳細調査が予定されています。わたしたちはこうした施策の進展を歓迎するものです。今後の調査対象の選定と実施が、情報公開の原則とともに広く市民団体、研究者の声を汲み上げて民主的に進められることを強く求めます。一方、東大和市の日立航空機立川工場給水塔の解体、京都 16 師団の師団長官舎の取り壊し、さらには沖縄県具志頭村のガラビ壕が立ち入り禁止にされようとするなど、安全の確保を名目にした戦争遺跡の改変・解体・消滅が全国で進んでいるのも事実です。こうした緊急性のある遺跡については、詳細調査の終了を待たず一刻も早い調査と保存の実施を求めるものです。また、自衛隊による旧軍関係遺跡の保存や、金沢市での「聖戦碑」の建立問題など、戦争遺跡の保存が戦争の肯定や美化につながる傾向も見られています。わたしたちはこうした動きに反対し、「平和のための戦争遺跡保存」という運動の原点を改めて確認するものです。

「平和の 21 世紀」、その幕開けとなるべき今年、憂うべき状況が進んでいます。ことにアジア太平洋戦争を賛美する歴史教科書が検定を通過し、首相が A 級戦犯を合祀する靖国神社に公式参拝する意向を表明していることは、戦争を反省し平和な日本と世界を作り上げようとする国民世論への挑戦として、絶対に許すことのできない重大な問題です。軍国主義日本の犠牲となったアジア諸国からこうした日本の動向に強い抗議が寄せられているのは当然であり、草の根の活動によって作り上げられてきたアジア諸国民との友好と連帯の成果を無にするものとして、強い憤りを覚えざるをえません。

アジア太平洋戦争を過去のものとして忘れ去るのではなく、いまだに埋もれている真実を掘り起こし、正しく次の世代に伝えていくことは、戦争の 20 世紀を生きたわたしたちの義務であると考えます。戦争遺跡の調査と保存をすすめるわたしたちの活動は、こうした幅の広い国民的な運動に連なるものです。2 日間のシンポジウムを通じ、再び戦争への道を歩もうとしている日本の現状に強い危機感を覚えると同時に、討議によって得た知恵を各地でいかなしながら、わたしたちの運動をさらに広げていくことを決意します。平和を願う全国のみなさんが、わたしたちの運動に参加されることを訴えてアピールとします。

「日吉台海軍省艦政本部地下壕」保存についての決議

アジア太平洋戦争が終わって56年が経過し、21世紀初年の夏を迎えた今日、改めてあの戦争が問われ、戦争の実相を伝える戦争遺跡を調査・研究、そして史跡として保存し、広く市民に公開することが極めて重要になってきています。

戦争遺跡が「平和のための戦争の語り部」として果たす役割は大きく、この戦争遺跡保存運動は、今日、全国の多くの研究者と市民によって粘り強く進められ、大きな広がりを見せています。

一方で、全国で数万を超える戦争遺跡の多くは、何ら保存対策が施されないまま、風化・改変・消滅の危機に直面しているのが実態です。こうした中で、今日、横浜市港北区にある貴重な戦争遺跡「日吉台海軍省艦政本部地下壕」も崩落の危険を理由に、学術調査・研究もないまま、横浜市によって厚い擁壁で全体が閉鎖され埋め戻されようとしています。

横浜市港北区日吉本町三丁目から箕輪町三丁目に連なる丘陵地は、現在横浜市によって「日吉の丘公園（仮称）」整備が進められていますが、アジア太平洋戦争末期にあって、「本土決戦」に備えて築造された海軍省の中枢機関の1つ「日吉台海軍省艦政本部地下壕」が所在する戦争遺跡です。海軍省艦政本部は、艦船、機関、航空機を除く兵器、に関する技術行政の総元締めで、これらの新造計画、修理、審査、研究および実験等を主要業務としていました。そして慶応義塾日吉キャンパスに置かれていた連合艦隊司令部や航空本部と密接な関係を持つ重要な部局です。併せてこの丘陵は、箕輪殿袋貝塚や最近発見された「箕輪横穴墓群」（7世紀末）9基がある歴史的文化遺産の豊かな里山なのです。

したがって、横浜市行政当局にはこの丘陵地全体を視野に入れた公園計画と緑の保全、そして、歴史的文化遺産の保護が、地域の市民団体（日吉台地下壕保存の会・自然と文化遺産を守る地元住民の会・日吉環境を守る会・日吉の森を守る連絡会など）から求められています。また、自然保護、地下壕保存について多数の市民から希望や疑問が出されている「日吉の丘公園（仮称）」整備については、国土交通省が現代の都市公園に歴史的遺産を取りこむことを奨励しているように、近代遺産として地下壕を取りこみ、説明板を設け、公園内の施設として周知・普及する必要があります。艦政本部地下壕の歴史的意義は高く、地下壕遺構の遺存状態は良好です。延長2.5km10本の坑内には、喚起筒・トロッコの軌道跡・井戸・大谷石・排水溝・排水枡などの遺構、セメント菰・掘削作業で使われた標識と思われる木札や削岩機の先端部のロッド部品・電気配線の碍子・レンガなどの遺物が残存することが、日吉台地下壕保存の会の本年の自主調査によってあきらかになっています。当時、資材がまったく枯渇していくなかで日本海軍が総力をあげて築造に取り組んだ姿を彷彿させています。

私たちは、横浜市行政当局が人命優先の防災安全対策工事を進める事に一定の理解をしていますが、2000年～2002年度に防災埋め戻し工事が北部の壕では進んでおり、「日吉台海軍省艦政本部地下壕」の構造調査等学術調査をしないまま全面閉鎖することに反対いたします。ここにきて文化庁の近代遺跡調査は3年間の所在調査を終え、2001年度から詳細調査の段階に入り、文化財の評価を行う行政的な立ち入り確認の必要もあります。したがって、公園整備で崩れる危険性のある地下壕入口部を復元可能な土嚢などで仮封鎖することに留め、地下壕の全面的な閉鎖・埋め戻しはすべきではないと考えます。以上のことから、私たちは関係行政機関が次の事項を実現することを強く要請します。

記

- 1、行政機関が「日吉台海軍省艦政本部地下壕」について、地質・歴史・考古学・土木・建築学・文化財分野の公的調査体制をとり、直ちに学術的調査・研究を進めること。
- 2、行政機関は、この戦争遺跡「日吉台海軍省艦政本部地下壕」を、必要な安全対策をとったうえで壕の大部分を保存し、後世に伝えとともに、二度と忌まわしい戦争を繰り返さないよう、多くの市民とともに戦争の真実にせまり、この戦争遺跡を平和構築に活用すること。

以上決議します。

2001年8月5日 第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム「神奈川県川崎大会」

会員の皆様へ出版物のご案内

第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム「神奈川県川崎大会」に向けて、日吉台地下壕保存の会が主催団体の一つである「川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会」編集の2冊の本ができました。残部があります

すので、会員でまだお読みでない方は是非お読み下さい。またお知り合いの方にお薦めいただくなど完売に向けた販売にご協力下さい。

『戦争を歩く・みる・ふれる』

—ピースロード多摩丘陵—

教育史料出版会発行 定価 1680 円 (のところを会員価格 1500 円)

日吉台の連合艦隊司令部跡、箕輪ー井田ー蟹ヶ谷の海軍通信隊地下壕ー宮崎台ー陸軍登戸研究所跡ー浅川の旧中島飛行機地下工場跡などを歩きながら見学し、戦争と平和を実地で考えようというピースロード構想。そこを歩けば、多摩丘陵の美しい自然や、豊かな歴史や文化にも直接触れることが出来ます。ピースロード構想とは、悲惨な戦争の歴史の跡を、多くの人が現地で実際にふれて見ることによって、二度と戦争をすることのない 21 世紀の平和な日本を築こうという壮大なプランで、将来はこの道を松代の大本営地下壕まで伸ばしたい。沖縄から、長崎から、広島から、全国でピースロードを歩き、ネットワークを作りませんか？地に足を付けた運動の第一歩を踏み出すために、本書は最良の参考書です。



『アジア太平洋戦争下の大学と軍隊』

川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会」編集・発行 定価 400 円

昨年慶大日吉キャンパスの藤山記念館で行われた横浜・川崎平和のための戦争展(わたしの街から戦争が見える)における、次の二つの講演記録。

「太平洋戦争下の慶応義塾」・・白井 厚
(帝京平成大学教授、慶大名誉教授、戦争展

実行委代表)

ゼミナールで共同研究 空前のアンケート調査 戦没者名簿も作成 旧制大学と新制大学 懲役猶予の特権と教練 慶応義塾の特徴 戦時下の学生たち 「学徒出陣」へ 学内には特高警察 戦意高揚の歌

三田新聞の「出陣」特集号 日吉台の海軍
極秘地下壕 戦没者のこと Q&A 参考文献

「戦争の世紀としての20世紀-731
部隊と細菌戦-」

・松村高夫（慶大経済学部教授）

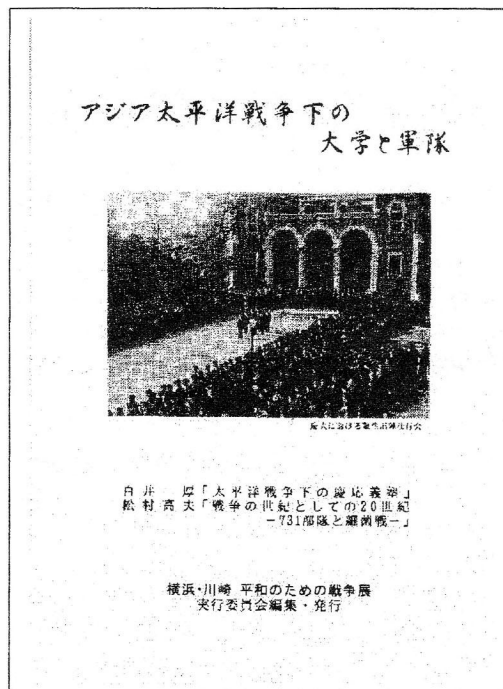
20 世紀の大量虐殺 戦争の本質と起源
731 部隊との関わり 人体実験と細菌
兵器の製造 細菌兵器の使用 敗戦後の
731 部隊 アメリカによる人体実験「成
果」の入手 残されている諸課題 Q&A
参考文献

書籍の代金と送料を振り込んでいただけ
ましたら郵送いたします。

本会報に同封される振込用紙（赤色用紙）
で入金いただきますと振込み手数料は不
要です。

送料

『戦争を歩く・みる・ふれる』のみの場合 : 310 円
『アジア太平洋戦争下の大学と軍隊』のみの場合 : 180 円
両方一度にご注文の場合 : 310 円



会員の皆様へ学習会のご案内

日吉の海軍で仕事をしていた人から話を聞く会

運営委員会では、日吉の海軍で働いていた人の話を聞いて歴史を学ぶ学習会の準備を
すすめています。元理事生（女性の事務員）のお話を聞くことが出来る予定です。奮
って参加して下さい。事前の申し込みは不要です。

日時：2001年10月20日（土） 13:30～15:30
会場：慶応高校物理教室

問合せ先：045-561-2758（亀岡 敦子）
：045-563-0443（喜田 美登里）

第9回川崎・横浜 平和のための戦争展 全国14団体の戦争遺跡資料を展示

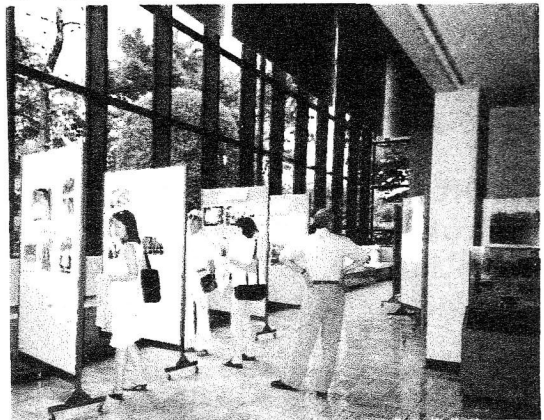
第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川・川崎大会、第9回川崎・横浜平和のための戦争展の開催にあたって、実行委員会は戦争遺跡保存全国ネットワークの参加団体に会場の川崎市平和館展示スペースでの『全国の戦争遺跡展』への展示協力をお願いしました。14団体から展示資料が寄せられ、全国シンポジウムにふさわしい展示ができました。

これらのA3版サイズに作られた、戦跡写真、キャプション等は全国ネットワークの財産となり、各団体への貸出ができます。

展示団体

北方地域研究会 松代大本営の保存をすすめる会 松代強制連行調査団 東大和の戦災建造物の保存を求める市民の会 戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会 戦争遺跡保存ネットワーク高知 「731部隊遺跡世界遺産登録」を目指す国民連絡会 山梨県戦争遺跡ネットワ

ーク 浅川地下壕の保存をすすめる会 蟹ヶ谷地下壕を保存する会 赤れんが倉庫に博物館をビスマーグム よこはま 川崎平和ウォーキングマップ 新緑 栄区海軍燃料廠 日吉台地下壕保存の会



活動の記録

2001. 7 ~ 9

7/6 第2回運営委員会 会報58号
発送（慶應高校物理教室）

7/8 戦争遺跡保存全国ネットワーク
運営委員会（法政第二高校）
日吉台地下壕見学会（11:00-13:00）
全国ネット運営委員・一ツ橋大学浜谷ゼミ
15名

7/18 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会現地実行委員会（川崎
市平和館）

7/22 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会 プレイベント 日吉台
地下壕見学会（13:30-16:00）96名

7/29 日吉台地下壕のガイド学習会6名

8/3 日吉台地下壕見学会 歴史教育者
協議会 40名 全国シンポジウムの会場
展示等準備（川崎市平和館）

8/4~5 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会 第9回川崎・横浜平和
のための戦争展（川崎市平和館・法政第二
高校）700名 フィールドワーク103名（時計壕）

8/6 時計壕観覧会（15:00-17:00）慶應大学
国際関係会20名

8/9 時計壕観覧会（13:00-15:30）港北年金者
組合42名

8/19 時計壕観覧会（10:00-12:00）
学習館・9条寺小屋他19名

8/28 時計壕観覧会（9:30-12:00）港北区
小中学校初任者研修（郷土）35名
第3回運営委員会（慶應高校物理教室）

9/1 平和のための戦争展 in よこはま実
行委員会（神奈川県民サポートセンター）

9/2 時計壕観覧会（10:00-12:00）港北市
民ジャーナル18名

9/9 時計壕観覧会（13:00-15:30）戦争遺跡
保存全国シンポジウム アフターイベント
35名

予定

9/18 第4回運営委員会（郷土郷土）

★日吉台地下壕保存の会は11月から月1回、日吉台地下壕の定期見学会を持つ予定です。見学希望の方は右記にお問い合わせ下さい。（045-562-0443 喜田）